

但本文旅費支給向ノ義ニ付兼テ各縣伺出候未其時々指  
令及ヒ且ツ廻々相連候趣モ有之處自今ハ都テ消滅ノ義  
ト可相心得此旨副連候事

明治十六年三月廿六日  
海軍卿川村純義代理  
工部卿佐々木高行  
海軍一般  
○海軍省丙第三十五號  
當本省兩門並邸内之義自今等外吏若クハ等外同等ノ者ヲ  
以テ守衛巡邏セシメ候條此旨爲心得相連候事

明治十六年三月廿六日  
海軍卿川村純義代理  
工部卿佐々木高行  
○本年(三月)丙第三十號省建國旗揚揚規則第四條第五條  
中逕過トアルハ經過ノ誤リ  
明治十六年三月二十日  
海軍書記官

叙任賞勳  
明治十五年十二月廿九日分  
大藏少書記官從六位 山内 芳秋  
全 全 小林 好愛  
全 全 長谷川爲治  
大藏三等技師全 大野 規周  
大藏四等技師正七位 矢島 庸保  
叙從六位 松本 美彦  
叙從五位 正七位勳五等 林 三介  
叙正七位 渡邊 至  
全 全 安井 讓  
全 全 長崎 讓  
全 全 安原 讓  
全 全 池田 重清  
全 全 波多野敬直  
全 全 永尾 訓和

時事新報

天下太平如何シテ得ベキヤ 第一  
我邦ハ今日マデモ大ニ爲スノアルノ日ヲ經過セリガ  
今日ハ方々内外多事ノ衝ニ當リタルモノ、如シ、コノ  
多事ノ日ニ際シ内ノ治安ヲ保テ外ニ獨立ノ跡ヲ全クシ  
計審其宜ヲ失ハザラント欲セバ大膽觀以テ事ヲ處セザ  
ル可カラズ鎮港ノ昔日ニ在テハ外ニ鋒ヲ爭フノ國ナシシ  
テ榮華也耻辱モ共ニ掌大ノ島中ニ集リシレバ其榮華ハコ  
ノ島中ニ於テ之ヲ爭ハザララス開國以前ノ日本人ハ日  
本全國ヲ以テ日本以外ノ敵ト爭フノ觀念ナキガ故ニ其爭  
ハ日本國內ニ止マリ眼中日本ノ一部ヲ映スルノミニシテ  
未ク其全部ヲ見ス端牛角上ニ錐球ノ利ヲ較レ日本全國  
何等ノ損害アルモ其損害タルヲ知ルニ由ナシ今ヨリ之ヲ  
評スレバ局部ノ利害ノミニ全面ノ利害ヲ犧牲ニシタル  
ガ如シナルモ鐵國ハ自カラ鎮國ノ一乾坤ニシテ國內ノ小  
弊爭モ或ハ當時事物ノ不活動ヲ攝スノ機會ト爲リテ直接  
間接ノ効驗ヲ生シタルノ意味アリシトナラント雖モ今  
ヤ則チ然ラズ鋒ヲ爭フノ強敵ハ國ノ腹背ニ羅列ス此強敵  
ノ間ニ在シテ對等ノ地位ヲ保テ自國ノ面目ヲ失ハザラ  
ント欲セバ力ヲ以テ爭ヒ利ヲ以テ爭ヒ日本全國ノ力能ハ  
外交ノ一事ニ集マザラズカカス島嶼ノ捕獲ヲ兼テ内

區々ノ失得ヲ爭フトキハ數十ノ漁人將ニ其後ニ乘セント  
ス經世ヲ以テ自任スル諸君子ハ何等ノ手段ヲ以テ今日ノ  
厄運ニ當ラントスル歟我輩痛心ニ堪ヘザルナリ  
我輩ハ本來國權ノ利害ヲ以テ利害トスルモノニシテ政治  
上ノ是非ハ一切万事之ヲ國權ノ利害ニ照シ其利害ヲ標準  
トシテ審斷下スモノナリ故ニ我輩ノ眼中ニハ友ナシ又  
敵ナシ唯タ日本國アルノミ日本ノ爲トアレハ榮華財產  
ハ首ヲ足ラズ生死ヲ以テ之ガ利害ヲ決スベシ其他區々  
ノ失得ノ如キハ常ニ眼下ヲ經過シテ我輩ノ眼ヲ迷リタル  
ナリ我輩ノ心事ハ如此シ日本國民ノ心事ハ渾テ如此ク  
ナルベシ否如此クナラザラズ然リト雖モ明白相半ス  
ルハ世上ノ通患ナリ守錢奴ガ金錢ノ購買力ヲ貴ハズテ  
直ニ金錢其物ヲ貴フガ如キ讀書家ガ文字ノ意味ヲ解スル  
ヲ忘レテ直ニ文字其物ヲ釋スルガ如キ畢竟目的ヲ達スル  
ノ媒介ヲ得ル爲ニ却テ其目的ヲ失スルモノナリ其不明瞭  
クベシト雖モ政治上ニ於テハ特ニコノ不明ノ多キヲ見ル  
ナリ蓋シ政治ノ一局ニ熱スル者ノ弊ヲ舉レバ其局面ノ事  
物ニ蔽ハレテ廣シ全面ノ利害ヲ顧ミルニ暇アラズ小體近  
觀以テ事物ノ是非ヲ評シ其怡然中觀テ觀ルガ如ク正  
且淨丑ノ區別ヲ誤ラズ一時ノ感情ニ依頼シテ邪潔潔  
ヲ決スルモノナキニ非ズ是故ニ榮華財產ハ國家ノ犧牲ニ  
供スベシト云フ其榮華財產ヲ得ルガ爲ニ國家ノ利害ヲ忘  
却スルモノアリ各其主義ヲ固執スルハ人民ノ幸福ナリト  
云フ其主義ノ衝突ハ人民ノ不幸ヲ來スチ願ミザルモノア  
リ此等ノ奇觀ハ畢竟熱心ノ過度管理ノ不明ニ原因スルモ  
ノコトナリ之ヲ奈何トモスル能ハズト云フト雖モ一身一家  
ノ小事ナラバ則チ可ナリ苟モ國家ノ大事ニ關スルニ至テ  
之ヲ奈何トスル能ハズトテ其自然ニ放任シ可キ我輩ハ  
斷シテ其不可ナルヲ知ル者ナリ精カク三四年来世狀ヲ觀  
察スルニ政治ノ思想漸シ人民ノ腦ニ浸人シ一昨年十月ノ  
大詔アリテヨリハ我邦未ダ曾テ有ラザル所ノ政黨組織  
ヲ主權擴張ノメ政治ノ上ノ觀察ハ遊説ヲ地方ニ試ムル  
モノモ少カラズ是ニ於テ都鄙ノ人民政治ニ熱心スルノ度  
次第ニ遞進シテ其底止スル所ヲ知ラズ時ニ或ハ其熱心ニ乘  
リテ各自ノ黨派ヲ擁護スルモノアリ甚キハ政治主義ノ  
爭ヲ腕力ニ訴ヘテ其政敵ヲ傷スルモノアリ之ヲ要スル  
ニ我邦人民ガ政治上ノ熱心ハ増アリ滿ナキノ有様ナリ而  
シテコノ熱心ハ報國ノ丹精トモ稱ズベキモノナレバ其熱心  
スルニ至ラバ熱心ト熱心ト相觸レテ遂ニ軋軋ノ烈火ヲ生  
シ報國ノ丹精モ其成果ハ將ニ亡國ノ荼毒ニ變ズルナキナ  
リ可クアズ今ノ政治ヲ談ズルモノ口ヲ開クハ概ナリ日  
治二十三年ニハ議院ヲ開キ日本ノ政治ヲ議セシムルコトハ  
論議ニ於テ明ナリ我邦ノ人民ハ政治思想ヲ發シ時來テ撰

撰スルノ愚ヲ始サハレシト今日コトハ政治ニ熱心スル  
モノモ其餘熱ニ感スルモノモ二十三年云々ヲ冒頭ニ掲ケ  
テ政治思想ヲ養成スルノ急務ナルヲ説カザル者ナシ我輩  
固ヨリ其赤心ニ感服スト雖モ其所謂政治思想トハ如何ナ  
ク思想ナル歟預メ之ヲ詳ニコシ然レ後ニ之ヲ養ハザレハ報  
國ノ赤心モ實効ヲ奏スルコトナカルヘキナリ夫レ政治ノ  
社會ニハ局面ニ立テ政ニ當リ又コレニ當ラントスル者  
或ハ局外ニ在テ之ヲ評スル者アリ甲ハ政事ヲ以テ畢生  
ノ職業ト爲シ政談ニ奔走シテ直接ニ其主義ヲ行ヒ又行ハ  
ントスル者ニシテ之ヲ名ケテ政事家ト云フ乙者即チ政  
評スルモノトハ政治ノ紛象ヲ傍觀シテ其利害ヲ斷斷ニ開  
コ所好ノ主義ヲ行ハレシムルモノト即チ學者ヲ始メトシ  
テ農工商全般ノ人民是ナリ政ニ當ルモノト政評スルモ  
ノトハ其區別大ナリト知レシ今日ノ論者ガ政治思想ヲ  
養フトハ政ニ當ルノ思想ヲ養フニ在ル歟將チ政評スル  
ノ思想ヲ養フニ在ル歟若モ政ニ當ルノ思想ナリト假定  
セバ我邦ノ人民ニ政治思想ヲ養ヘトハ取モ直サズ幾白刃  
ノ政事家ト輩出セシメントスルモノトテ事實ニ於テ之  
輩出セシメントラバ供給需要ニ超過シテ各自ラ售フコト  
争ヒ其争ハ國家ノ禍タルヲ免レズ然則チ政治思想トハ政  
評スルノ思想ニシテ之ヲ養フハ直接ヨリモ軍閥間接  
ノ所好ノ主義ヲ行ハレシムルノ用意ニ外ナラザル可シ今夫  
レ政ニ當リ又當ラントスル者ガ直接ニ其主義ヲ行ヒ又行  
ハントスルニ當テハ驍虎ノ勢ヲ知ラズ驕ラズ淺近ナル  
策ヲ採用スルコトアリ英國大政事家ノ配傳ヲ讀ミ其内  
ニ出入スルノ政略ヲ見ルニ妄想ヲ蓄キテ衆民ヲ誘服スル  
モノアリ其古ナリ二三ニシテ前約ヲ履ミザルモノアリ其策  
甚ダ淺近ナルニ似タリト雖モ是レ其心事ノ淺近ニシテ人  
物ノ卑劣ナルニアズ其地位ノ然ラザルモノニシテ局  
ニ當ル者ノ勢ニ於テ自ラ之ヲ制スルコト能ハザルモノ  
ナレバ必ズ無慈悲淡泊局外ニ在テ之ニ注目スルモノナカ  
可ラズ即是レ政評スル者ノ責任ト云フ可キモノナリ故  
ニ政治社會ヲ以テ劇場ニ譬フレバ政ニ當ルモノハ俳優  
ニシテ政評スルモノハ觀客ノ如シ俳優ハ舞臺ニ上テ其技  
ヲ演シ觀客ハ其技ノ巧拙ヲ評スベシ而シテ其之ヲ評スル  
ハ俗ニ所謂之居ノ心付ニシテ政治上ノ舞臺ニハ政治ノ  
思想ト稱スルモノナリ今劇場ニ於テハ俳優觀客各其職分  
ヲ守ルガ故ニ始メテ其具體ヲ具フト雖モ觀客モ亦俳優  
ニカクザラズ政ニ當ルモノト政評スルモノトノ區別ヲ  
忘却シ人民集テ政事家ヲシテスルハ政治上ノ舞臺ニ於  
テ總理ヲ再演スルモノニシテ政治ノ舞臺ニ於テ總理ノ  
利害ヲ争フニ忙シシテ外國ノ大政ヲ觀ミルモノニシテ  
至レ可ク去連ハ局外ノ利害ノノミニ全クノ利害ヲ

明治十六年三月二十日  
海軍書記官

トシテ却テ其目的ヲ殆スルモノト相去ルコト果シテ...

雑報

○行啓 開皇宮より来月上旬上野水産博覧會へ行...

停止の姿とあり公債証券並株式の一方は傾くとあ...

小依れの持り頭三郎のみかき新編自由黨員中...

る土地廣大人民衆多商賈上政...